

# 令和7年度 種市中学校教職員 働き方改革アクションプラン ～Team種中「タイムマネジメント&ワーク・ライフ・バランス」～

種市中学校では、「洋野町教職員働き方改革プラン（R6～R8）」に基づき、以下の取組により、「学校における働き方改革」を推進します。

## 1 現状と課題

### 【定量的現状】

◆「洋野町教職員働き方改革プラン（R6～R8）」目標達成状況

#### 【目標1】

「時間外在校等時間が月 80 時間以上の教員をゼロにすること」を目指す。

#### ① 時間外在校等時間が月80時間以上の者（延べ人数）

R6： 11 人 （基準年度：R5年度：2人）

#### 【目標2】

時間外在校等時間（週休日等の部活動従事時間を含む）が月 45 時間超、年 360 時間超の者を下記のとおり段階的に縮減する。

#### ② 時間外在校等時間が月45時間以上の者（延べ人数）

R6： 96 人 （基準年度：R5年度：76人）

#### ③ 時間外在校等時間が年360時間以上の者（延べ人数）

R6： 13 人 （基準年度：R5年度：12人）

### 【定性的現状】

#### ① 管理職のマネジメント

- ・スクラップアンドビルドの視点を持って業務見直し等の対応を行っている。
- ・週担当時数の中に、教材研究・授業準備優先時間「うしおタイム」を設定している。

#### ② 教職員の健康管理

- ・毎週月曜日は部活動がない日とし、定時退庁の体制を整えている。
- ・心身共に健康な状態で業務が遂行できるよう、積極的年次休暇取得を推奨している。

#### ③ 学校における業務改善、業務明確化・適正化

- ・校務支援システム、ICT機器の活用による業務連絡や会議開催に係る事務軽減を行っている。

## 2 目標・目指す姿

町の働き方改革プランの目標を前提に、以下の目標を設定します。

### 【学校独自の目標】

- ① 時間外在校等時間が、年間平均45時間以下の者の割合を60%以上に  
する。（昨年度50%）
- ② 年次休暇の年間平均取得日数を10日にする。

### 【目指す姿】

- ① 教職員の専門性の発揮が求められる業務を精選し、安全配慮や守秘義務等を考慮した上で役割分担を見直す等、学校や教職員の業務の軽減に取り組んでいる。
- ② 教職員一人一人が、専門職としての誇りとやりがいをもって業務に取り組んでいる。
- ③ 教職員が、生徒一人一人と向き合う時間を十分に確保できている。

3 (2を達成していくための) 具体的取組内容		
(1)	教職員の健康管理	① 管理職が、タイムマネジメントとワーク・ライフ・バランスの在り方について積極的に呼びかけを行います。
		② 月の時間外在校等時間が月途中で30時間超となった教職員に対し、健康確保の観点から積極的に声がけを行います。
		③ 部活動において、保護者会とも調整しながら、活動時間や休養日など活動方針に則って適正化に努めます。
(2)	学校における業務改善の推進	① 管理職が、業務や会議の効率化や学校行事の見直し等について積極的に提案します。
		② 軽微なお知らせやアンケート、出欠確認等については紙での配付を廃止し、メールでの配付・周知を行います。
		③ 校務支援システム、ICT機器をこれまで以上に積極的に活用し、業務の効率化を図ります。
(3)	業務の明確化・適正化の推進	① 働き方改革の取組について、保護者や地域の方々に理解していただけるよう、学校運営協議会や校報を通じて周知します。
		② 業務の明確化・適正化を推進していることを周知するために、本プランを職員会議で教職員と共有します。
		③ 休日の部活動については、部活動指導員や保護者会の協力を得ながら、教職員が休養をとれるようにします。
令和7年度の重点取組事項	① 本務に取り組むための時間確保の工夫	
	② リフレッシュを図るための計画的かつ充実した休暇取得	
	③ 年間時間外在校等時間の削減	

5 2の反省	
①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	

4 アクションプランの周知方法
① プランを学校のHPに掲載し、職員会議を通じて教職員にも周知します。
② 学校運営協議会や校報を通じて、地域・保護者に対してプランの内容の説明を行います。